

令和8年3月小谷村議会定例会  
一 般 質 問 要 旨

令和8年3月9日（月）午前10時開議

- ① 4番 清水 秀雄 議員
  - (1) 前山ジャンプ台等の今後について
- ② 6番 深澤 英喜 議員
  - (1) 物価高騰重点支援事業について
  - (2) ふるさと応援寄付金事業について
  - (3) 農業支援について
  - (4) 村道整備事業について
- ③ 9番 曾根原恵子 議員
  - (1) 暮らし優先の予算を
  - (2) 公共交通の利便性の向上を
- ④ 2番 田原富美子 議員
  - (1) 農地の活用と今後の展望について
- ⑤ 3番 柴田 友造 議員
  - (1) 山村留学について
  - (2) 地域コミュニティづくりについて
  - (3) 移住定住の3原則（住宅・教育・仕事）について
- ⑥ 5番 相澤 稔 議員
  - (1) 小谷村の未来と課題について
  - (2) 観光振興の取組について
- ⑦ 1番 横澤 匠 議員
  - (1) 持続可能な観光振興施策について
  - (2) 新年度に重視して取り組む施策は
- ⑧ 10番 宮澤 正廣 議員
  - (1) 事業成果及び今後の重点施策について

令和 8 年 2 月 20 日

小谷村議会議長 宮沢 正廣 様

小谷村議会議員 4 番 清水 秀雄

### 一 般 質 問 通 告 書

次のとおり一般質問の通告をします。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質 問 の 相 手
1 前山ジャンプ台等の今後について	<p>3月1日の大会をもって伝統ある梅池ノルディック大会が幕を閉じます。幼少期に、この大会に参加した選手が、オリンピックに出場してきた実績もある大会であった認識しております。ジャンプ台や前山クロカンコースを主として活用する「小谷ジュニアスキークラブ」は会員数が34名。各種大会に向けて日々練習を重ねており、練習場所や関係者の協力あつてのことと理解しています。</p> <p>最後となる梅池ノルディック大会において、現段階で小学1、2年男女から中学生男女までクロスカントリー競技で204名、ジャンプ競技で43名合計247名のエントリーとのことです。参加者も減少もあり、大会運営は厳しい状況であることも承知しております。そこで、この大会が幕を閉じることにより、現在の施設の今後について伺います。</p> <p>(1)前山ジャンプ台の今後の取り扱いは。</p> <p>(2)クロスカントリーコースについて雪不足など様々な影響や課題があると聞くが、今後のコースの運営は。</p>	村長 関係課長

令和 8年 2月 20日

小谷村議会議長 宮澤 正廣 様

小谷村議会議員 6番 深澤英喜

### 一 般 質 問 通 告 書

次のとおり一般質問の通告をします。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質 問 相 手
1. 物価高騰重点 支援事業につ いて	<p>2月2日の臨時議会において可決された物価高騰重点支援事業について、事業効果と財政運営の観点から次の点を伺います。</p> <p>(1) 地域商品券事業について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 商品券事業を選択した経過及び政策目的</li><li>② 事業規模、対象者、利用期間等の具体的内容</li><li>③ 繰越事業とのこと、その理由と財源管理の考え方</li><li>④ 本事業の経済波及効果をどのように見込んでいるか</li></ul> <p>(2) アルプス Payポイント事業について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 登録人数及びポイント配布の実績(2,000P・1,000P)及び白馬村の状況</li><li>② 村内店舗の登録実績及び現在までの利用実績及び白馬村の状況</li><li>③ 物価高騰支援策としてアルプスpayポイントの配布事業を取り入れた理由</li><li>④ 今回の事業により地域経済循環をどの程度見込んでいるのか</li></ul> <p>(3) 非課税世帯エアコン設置促進事業について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 事業実施に至った背景</li><li>② 補助内容及び対象基準</li><li>③ 事業期間と申請見込み件数</li><li>④ 本事業終了後の継続支援の考え</li></ul>	村長 関係課長

<p>2. ふるさと応援 寄付金事業に ついて</p>	<p>ふるさと納税の返礼品充実や企業連携(ユナイテッドアローズ)を踏まえ、事業の成果と将来戦略についてお伺いいたします。</p> <p>(1) 寄付金実績とデジタル事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 本年度の寄付金総額の見込み</li> <li>② デジタル地域通貨システムによる「旅マエ・旅ナカふるさと納税」目標 3,000 万円の事業内容及び達成率</li> <li>③ 当該事業が村内消費拡大に与えた効果</li> <li>④ 次年度以降の事業展望と拡充方針</li> </ul> <p>(2) 返礼品テスト事業「雪室」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① テスト事業の内容及び対象商品</li> <li>② 当該事業に係る(係った)費用</li> <li>③ テスト事業の結果及び今後の展開について</li> <li>④ 予定する返礼品に対する想定寄付額及び実施主体</li> </ul> <p>(3) ユナイテッドアローズとの連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「ぼろ織」「わら細工」の返礼品提案の結果</li> <li>② 返礼品開発後の寄付額の見込み</li> <li>③ 寄付金事業以外も含め包括的連携の可能性</li> <li>④ 当該企業との連携に期待していることは</li> </ul>	<p>村長 関係課長</p>
<p>3. 農業支援につ いて</p>	<p>農業従事者が年々減少する中、農業機械の確保は地域農業維持の根幹であり、最も強く求められている支援であると認識します。その視点から次の点を伺う。</p> <p>(1) 地域農業耕作組合等への支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 組合認定の明確な基準</li> <li>② 規約・登録制度の整備状況</li> <li>③ 「村内平等支援」とは何を基準とするのか</li> </ul> <p>(2) RMO 事務局体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 現在の体制と運営状況</li> <li>② 今後の組織強化及び組合への案内方法</li> </ul> <p>(3) 農業機械管理・運用状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 村所有農業機械の種類と現状</li> <li>② 再生協議会所有農業機械の種類と現状</li> </ul>	<p>村長 関係課長</p>

<p>4. 村道整備事業 について</p>	<p>(4) 梅池松澤地区農水路改修について 2年前より要望している当該改修工事について、次年度の可否及び実施の場合の工程見込みを伺う。</p> <p>(1) 国庫補助事業による改修計画 令和8年度以降の村内改修計画の全体像と、前から要望が出ている梅池旅館区内全面改修道路工事の具体的スケジュールを伺う。</p> <p>(2) 村道雨水対策工事について 雨水対策を要望している村道(梅池ベルハート前)について、整備順位の考え方及び次年度計画の有無を伺う。</p>	<p>村長 関係課長</p>
---------------------------	---	--------------------

令和8年2月20日

小谷村議会議長 宮沢 正廣 様

小谷村議会議員 9番 曾根原 恵子

一般質問通告書

次のとおり一般質問の通告をします。

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1. 暮らし優先の予算を	<p>物価高騰で、村民の生活が厳しい中「暮らし応援」のために、税金をどう使うかが緊急課題となっています。26年度は、国民健康保険税・介護保険料・医療保険料の改定で、トリプル負担増だといわれています。障がい者や高齢者をはじめ、全世代の暮らしに追い打ちをかける負担増は村の将来にも関わります。公的責任として、村民生活を守るため、小谷村ならではの施策について伺います。</p> <p>(1) 村民の暮らしを守るために、財政調整基金など基金を活用する事業は。</p> <p>(2) 国民健康保険税は他の保険料と比較し、世帯割りなど独自の保険料計算であるが、他の公的医療保険と比較した場合の違いとその理由は。</p> <p>(3) この4月より、公立小学校の児童を対象に学校給食費の負担軽減が実施されます。これは児童一人当たり月5,200円を国が負担するものです。そこで、実際に必要な給食費用は国の支援金だけで補えるのか。補えない場合は村の支援内容は。</p>	村長 関係課長 教育長

<p>2. 公共交通の利便性の向上を</p>	<p>公共交通は、通学のスクールバス・高齢者対応のデマンドタクシー、そして観光客の二次交通としての路線バス、これらにより村民及び観光客の移動手段を確保しています。</p> <p>交通施策は、通学や高齢者の外出促進、地域経済の促進など、多面的な効果をもたらす重要な事業です。しかし、運行会社からは運転手不足・インバウンド観光の流れ、利用者からは、ダイヤ、本数の少なさや利便性など社会生活する上での課題があります。</p> <p>そこで、公共交通について、伺います。</p> <p>(1) 現在運行している路線バス、スクールバス、デマンドタクシーそれぞれの課題は。</p> <p>(2) 利用者や住民からの、意見・要望はどのように収集しているのか、どんな要望があるのか。</p> <p>(3) 意見・要望なども精査し、今後どのように公共交通施策を進めていく計画か。</p>	<p>村長 関係課長 教育長</p>
------------------------	--	----------------------------

令和 8 年 2 月 20 日

小谷村議会議長 宮澤 正廣 様

小谷村議会議員 2 番 田原 富美子

### 一 般 質 問 通 告 書

次のとおり一般質問の通告をします。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
1. 農地の活用と今後の展望について	<p>少子高齢化、後継者不足は農業分野でも深刻であり、離農により耕作放棄地や遊休農地が増加していく状況である。耕作放棄地の増加は、熊、鹿、イノシシなどの有害鳥獣の出没にも起因してくる。これ以上、耕作放棄地を増やさないためにも、農地維持の在り方を考え、今後の農業施策を進める必要がある。</p> <p>そこで、今後、農業分野に前向きな取組ができないかを伺います。</p> <p>(1) 保育園と学校給食への地元食材の利用をさらに増やすことは重要と考えるが、村として促進させるための取組計画や構想は。</p> <p>(2) 農林水産省が2021年に策定した「みどりの食料システム戦略」で2050年までに、農薬や化学肥料の使用の大幅な削減や耕地面積に占める有機農業の面積を、全農地の25%に拡大することを目指すとしているが、国や県の指針に沿って、小谷村での有機農業を推進していく考えは。</p> <p>(3) 山菜や農産物について、村の特産品として推奨する品目は。また、生産農家等への支援体制はあるのか。</p>	村長 関係課長

令和8年2月20日

小谷村議会議長 宮澤 正廣 様

小谷村議会議員 3番 柴田 友造

### 一般質問通告書

次のとおり一般質問の通告をします。

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 山村留学について	<p>里山学生塾「親子山村留学」について、幾度となく質問し、「全ての部署から横展開のプロジェクトの構築、庁内での山村留学に対する考えは、慎重に進める方向であるが、村長自身取り組み意欲はあり、2期目の任期中には実現に努め、住宅については、空き家リノベーションを考えている」と回答であった。</p> <p>そこで次について伺う。</p> <p>①庁内横展開できるプロジェクトの構築は、したのかしなかったのか。</p> <p>②2期目の残り1年で実現できるのか。</p>	村長 関係課長
2 地域コミュニティづくりについて	<p>人口減少・高齢化が年々進み、集落の維持も困難になってきている。そうした中で生活を守っていくためには、従来の枠組みを超えた地域コミュニティ（大字単位、流域単位、地形単位など）が必要と考える。</p> <p>令和5年9月答弁では、「優良事例などを参考に、地域の前向きな考えを聞くところから始める。また、人材育成も大変重要」とも答えている。</p> <p>そこで次について伺う。</p> <p>①地域の前向きな考えを聞いたのか。</p> <p>②地域を引っ張っていく人材育成は。</p>	村長 関係課長

<p>3 移住定住の3原則(住宅・教育・仕事)について</p>	<p>小谷村へ家を探しているなど移住希望者の相談をよく聞くことがある。物件がないとの声もきいている。そこで、小谷村への移住定住を促進していく取組について伺う。</p> <p>① 住宅・教育・仕事の3点が充実していることが必要だと思うが、村の考えは。</p> <p>② 住みたいけど住宅が無いという深刻な現状とその解決策は。</p> <p>③ 仕事に関して、相談や斡旋など希望者の対する対応について村の取組み内容は。</p> <p>④ 特色ある教育環境として、小谷村独自の学校教育で他と比べここが違うとアピールできる取組みは。</p>	<p>村長 教育長 関係課長</p>
---------------------------------	--	----------------------------

令和 8 年 2 月 20 日

小谷村議会議長 宮澤 正廣 様

小谷村議会議員 5 番 相澤 稔

### 一 般 質 問 通 告 書

次のとおり一般質問の通告をします。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
1 小谷村の未来と課題について	<p>竹内副村長は間もなく就任1年を迎えるが、県職員として長く勤務され、県内の多くの町村と交流や関りがあったものと思われる。</p> <p>そこで、外から客観的に見ていた小谷村と実際に行政の中核として関わる小谷村をどのように捉えているか。村に住み続けている者とは違った視点から、以下の項目について率直な思いと考えを伺う。</p> <p>① 小谷村の事前の印象と実際とにギャップはなかったか。</p> <p>② 村の魅力や誇れるものは何か。</p> <p>③ 行政サービスの質、量は十分か。</p> <p>④ 村は何を目指して進むべきか。</p>	副村長
2 観光振興の取組について	<p>長野県毎月人口異動調査によると昨年12月から今年1月にかけて村の人口が241人増加している。(県下3位) 冬のスキー観光が大きく寄与していると思われる。人口減少を緩やかにするためにも、グリーンシーズンの観光振興の取組みにアイデアはあるか。</p>	村長

令和 8 年 2 月 20 日

小谷村議会議長 宮澤 正廣 様

小谷村議会議員 1 番 横澤 匠

### 一 般 質 問 通 告 書

次のとおり一般質問の通告をします。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
1 持続可能な観光振興施策について	<p>観光産業は、就労場所の確保として、非常に重要な産業であると同時に、雇用が生じれば若い世代の定住にも繋がり、人口減少率を抑える施策と考えられます。観光振興を行う意義をしっかりと捉えなくてはなりません。持続可能な観光振興施策について以下について伺います</p> <p>(1) 今まで以上の多国籍の外国人観光客の増加に伴い受け入れ面についてどんな課題があると認識しているか。</p> <p>(2) 観光産業の発展に必要なコンテンツとしてデジタルの活用があげられるが、今後、デジタルを活用した観光施策は考えているか。</p> <p>(3) 外国人客が増加することで治安の悪化が懸念される。また、慣れない運転での来村による交通障害等も増加している状況である。外国人観光客が増加しても、住民が安全で安心して暮らせる対策は考えているか。</p> <p>(4) 観光産業が発展するには、事業者が稼げること、豊かに暮らしていけることが必要と思う。観光地で事業を始める者、事業を継続する者に対しての支援策の整備を提案するがいかがか。</p>	村長 副村長 関係課長

<p>2 新年度に重視して取り組む施策は</p>	<p>(5) 来年6月より導入される宿泊税について、その用途は観光振興のために活用するものであるが、現在、村で予定している税活用の振興策は。また、振興策や活用事業について村内宿泊事業者等観光関係者との検討会の実施の考えは。</p> <p>限られた財政のなか、近年の人件費高騰や物価高での対応には、苦慮しながらの村政運営だと思います。</p> <p>そこで新年度の村政運営は何を重視して取り組むのか、施策を伺います。</p>	<p>村長 副村長 関係課長</p>
--------------------------	---	----------------------------

令和8年2月20日

小谷村議会議長 宮澤 正廣 様

小谷村議会議員 10番 宮澤 正廣

### 一 般 質 問 通 告 書

次のとおり一般質問の通告をします。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
1 事業成果及び今後の重点施策について	<p>中村村長が就任し、7年が経過しようとしている。この7年間、村長の政策や計画等を進めていくと発言した事業は多数あると思う。</p> <p>そこで、これまで村長の宣言で実施した施策・事業・成果について伺う。</p> <p>(1) 村長が7年間で手掛けた施策・事業で成果があったと言える事業は。</p> <p>(2) 令和8年度、特に重点をおいて行う施策・事業とその理由は。</p>	村長 関係課長